

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171400351		
法人名	社会福祉法人 函館光智会		
事業所名	老人グループホームシルバービレッジ函館あいの里・泉(ユニット1)		
所在地	北海道函館市亀田中野町278番地53		
自己評価作成日	平成29年7月3日	評価結果市町村受理日	平成29年9月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2016.022_kan=true&JigyosyoCd=0171400351-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年8月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ① 理念に掲げている「ゆっくり・いっしょに・たのしく」を実践することで、入居者へ穏やかな生活を提供できるよう努めています。
- ② アニマルセラピーを実践することで、動物(猫・ポニー・山羊を飼っています)との触れ合いを通じ、癒しを提供できるよう努めています。
- ③ 函館市の郊外にある為、様々な木々、草花、綺麗な空気に囲まれた自然の中で生き活きた生活を過ごせ敷地内にある畑では農作物の栽培や収穫が出来ます。
- ④ 協力医療機関との連携がスムーズです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

函館市郊外の丘陵地で自然豊かな環境の中に立地している「老人グループホームシルバービレッジ函館あいの里・泉」は、グループホーム発祥である「老人グループホームシルバービレッジ函館あいの里」が運営母体で隣接しており、行事や会議は合同で開催している。敷地内には認知症対応型通所介護事業所があり、傾斜地を利用した庭園は四季折々の草花が咲き、噴水池側の丹頂鶴の置物はみごとな景観を醸し出し、地域の方々の憩いの場ともなっている。代表者はノーマライゼーションの精神に基づき「ノーマルな生活条件の提供」に取り組み、職員は利用者が家族としてふつうに暮らせる環境づくりに配慮し、個々の状態を見極めながら小動物との触れ合いや散歩などで戸外に出る機会を作っている。利用者は移動販売車で衣類を自由に選択しておしゃれを楽しみ、家族として穏やかな普通の生活を確保している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作り、施設入口に運営理念を掲げて、常に理念の実践化に向けたケアに取り組んでいる。	利用者を主体とした「ゆっくり、いっしょに、たのしく」の事業所独自の理念を作成している。管理者と職員はこれを熟知してサービスを提供する上での拠り所になっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設敷地内の散歩等はオープンにしている。又、町内会に入会しており、行事参加も可能な限り行っている。	地域に敷地内の庭園を開放しているので、小動物とのふれあいや散歩に多くの方々が訪れている。ご近所の高齢者住宅の危険な庭木の伐採や冬場の除雪などは代表者自ら支援するなど事業所と地域との相互関係は図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域の方からの助言、意見を参考にサービス向上に活かしている。	年6回開催している運営推進会議は、市担当者、包括支援センター職員、家族として後見人、地域の方々などが多数参加して実施している。日常の様子は映像で報告し、代表者のお話や意見交換も活発で双方向的な会議となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	社会福祉協議会から、一般市民向けの認知症についての相談業務を受託している。	市担当者からは困難を有する他施設の利用者などの相談と入居の問い合わせがあり、認知症に関する講演会の講師派遣の依頼など日常的に連携を密にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	魔の3ロックは絶対に行わない意識を持って、入居者が自由な動きが出来るよう図っている。	代表者は毎朝、ニュースや入手した情報の中から社会の動向を職員に話している。介護における事故や事件は事例を用いながら虐待と共に身体拘束による弊害も伝え、職員の意識の向上を図り、拘束のないケアに活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送り等を通して、高齢者虐待について話し合いをしている。		

老人グループホームシルバービレッジ函館あいの里・泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が外部研修を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を交わす際は十分に時間をかけ説明し、理解と納得を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中から、本人の希望や意見等を聞いたり、探っている。又、家族の意見や要望も同様に傾聴、真摯に受け取り、改善すべき所は速やかに改善する様に心掛けている。	全家族に「希望の処方箋」を配布して意見や要望の記載を依頼して運営に反映させている。職員は家族が来訪の時には雰囲気づくりにも留意しながら情報の入手に努め、家族と共に利用者を支えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や要望も同様に傾聴、真摯に受け取り、改善すべき所は速やかに改善するよう心掛けている。	代表者とホーム長は昼食やコーヒータイムを職員と共にして意見や提案を聞く機会を設け運営に反映させている。職員が自ら向上心を持って働けるよう職場の環境整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	その都度、状況の変化や要望に出来るだけ反した勤務体制とし、意見を取り入れ、やりがいにつながる様に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日の実践場面の中から学習素材をピックアップし、ミーティングやカンファレンスで話し合う機会や外部研修や市内の連絡会の参加にて学習を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や市内の連絡会の参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階で利用者の想いやニーズ生活習慣や病状を把握しており、環境が変わることへの不安を取り除ける様に努力している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接で家族のニーズ等を十分に傾聴し、信頼関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を見極めて対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアをしてあげているのではなく、入居者に教える請うているという姿勢が大切と教育している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡は密に行っており、状態に変化が生じた場合は随時来所してもらい、現状報告を行っている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人等との面会により、馴染みの関係の継続に努めている。		以前よりは知人、友人の訪問者が減少しているが、家族から得た情報に基づき、面会、外出、外泊の支援や手紙の代筆、電話の取り継ぎなど、個々の生活習慣を尊重して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他入居者と馴染みの関係が出来る様にカップリング、グルーピングの手法を用いて、孤立しない様に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関の紹介や相談を受け入れる等、継続的な関わりを必要とされる入居者、家族に対して付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から希望を聞き出し、把握に努めている。言葉や表情や仕草等から感じ取ることが出来ている。	管理者と職員は利用者の行動、言葉、仕草などで思いを察し、否定より同調に重点をおきながら自己決定を大切にに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、担当ケアマネジャー等と面接することで生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察から心身状態や本人が出来ること、出来ないことを把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	独自のアセスメントシートを活用し、カンファレンスで話し合い、利用者や家族の意見、要望を採り入れながら、介護計画を作成している。又、概ね6ヶ月に1度や利用者の状態変化に応じ、都度、現状に即した介護計画を見直し、作成している。	課題分析概要で個々の可能性を見出し、全職員でケアの方向性と目標を定めている。家族の要望は「希望の処方箋」を参考に意向を確認し、状態の変化に伴い随時見直しをしながら利用者がよりよく暮らせるよう介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活から個々の特徴や変化を記録、申し送り等で情報共有し、介護、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や外出、外泊等、利用者や家族のニーズに対応できる様に柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて対応している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関(内科、歯科医他)が中心となって受診支援が出来ている。	月2回、協力医の受診と訪問看護師が訪れ、健康管理をしている。受診、通院は職員が代行し、家族に結果を伝えている。かかりつけ医とは常に連携をしながら夜間体制も整えている。	

老人グループホームシルバービレッジ函館あいの里・泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置していないが、必要に応じて同敷地内のデイサービスの看護職員に相談している。又、定期的及び随時、往診医や訪問看護師が来所した際、気付いた事や日常の様子等の情報を提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は職員がほぼ毎日面会して、その都度状態の報告を受け、退院の目途等を調整している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じ、ターミナルケアの方向性について家族等と話し合っている。又、利用者がより良く暮らせる為に出来ることを見極め、変化に対応したケアが行える様に努めている。	事業所は終の住み家としての役割を担う事を入居時に家族に伝え同意を得ている。重度化に伴い看取り介護が必要になると代表者がインフォームドコンセントで家族の意向を再確認し、チーム全体で方針の共有を図り支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要に応じて同敷地内のデイサービスの看護職員の指導を受けたり、施設独自の緊急対応マニュアルを用意している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対策を整備し、避難訓練を行うことで対応が出来る様に努めている。	年2回の訓練は、母体事業所と合同で地域や家族の参加もあり、昼夜想定火災訓練をしている。岩盤地に立地している事業所で庭園と岩石は美しい景観のみならず自然災害に備えての工夫もあり、備蓄も保管されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分配慮している。	職員は利用者の人格を尊重した声かけや接遇に努め、居室入口の写真は利用者の混乱防止として家族の同意を得て使用するなどプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思、希望が表現できる様な声かけや表情、仕草等にも十分に注意し、自己決定し易い支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事等、一人ひとりのペースに合わせた暮らしになる様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常日頃、身だしなみやお洒落が出来る様に支援している。又、定期的に訪問理美容を利用している。		

老人グループホームシルバービレッジ函館あいの里・泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなる様に味や彩り、盛り付けにも工夫を凝らしている。又、一人ひとりの状態に合わせて準備を手伝ってもらう事もある。	行事や地域の風習に合わせた献立で、菜園で育てた野菜を食材にし、一人用の卓上コンロや塗りの弁当箱、ガラス、陶器の使用で季節や料理に合わせた器にもこだわり、盛り付けも美しく家庭的である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮したメニューを取り入れ、食事や水分の摂取状況を把握し、状況に応じた介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいと就寝前の義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の観察から、排泄パターンや習慣を把握し、出来るだけトイレで排泄できる様に声かけや支援をしている。	排泄パターンを把握して、さりげなく声かけをしたり、時間誘導をするなど個々に応じて自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や食事内容、持病等を考慮し、運動量を検討、実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介助が必要な方に関しては身体状況に応じて順番等を考慮している。	明るく、清潔感のある浴室にはリフトが取り付けられ、週2回の入浴を目安にしている。大型の浴槽で複数で入ることができ、服の脱着までは拒否が見受けられるが、入浴後は笑顔になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動の中で生活のリズムを整える様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示通りに服薬できる様に支援し、症状の変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下準備、洗濯物たたみ、テーブル拭き等、入居者の心身状態や生活歴に応じた役割や楽しみ事の支援している。		

老人グループホームシルバービレッジ函館あいの里・泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は敷地内を職員と一緒に散歩、日光浴、焼肉等を楽しまれたり、年間行事として花見、りんご狩り等に出掛けている。お墓参り等は家族と一緒に連れて行ってきている。	広大な庭園の遊歩道は手すりが完備され、足元の敷石はリハビリ用に工夫が施され、つつじや樹木の花々を眺めポニーや山羊とふれあい、散歩を楽しんでいる。りんご狩り、お花見、ソフトクリームを食べに行くなど、遠方のドライブでの外出や外気支援を取り入れ支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や状態を見極めながら、小額の金銭管理を行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望と状態に応じ、事務所から電話を出る体制をつくっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には草花や馴染みの道具を飾ったり、ソファを用意し、家庭的な雰囲気の中で居心地良く過ごせる様に工夫をしている。	対面式の台所と食卓テーブルやソファの配置は、家庭的で刺激的な音や光もなく、風通しがよく広くてゆったりとしている。壁の絵画や木彫りの装飾品は落ち着いた雰囲気を醸し出し、所々に用意している椅子やソファは利用者の居場所を確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	シットニングコーナーやサンルームを用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく、馴染みの道具を持ち込んでもらっている。	ユニット型の居室はプライバシーが確保され、陽当たりがよく、クローゼットとナースコールが備え付けてあり、各自が持参したベッドは木製で統一している。カーペットとカーテンは防炎加工を施しており、居心地のよさに工夫が見受けられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来ること、出来ないことを十分に把握し、落ち着いた生活が出来る様な環境づくりをしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171400351		
法人名	社会福祉法人 函館光智会		
事業所名	老人グループホームシルバービレッジ函館あいの里・泉(ユニット2)		
所在地	北海道函館市亀田中野町278番地53		
自己評価作成日	平成29年7月3日	評価結果市町村受理日	平成29年9月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0171400351-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年8月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ① 理念に掲げている「ゆっくり・いっしょに・たのしく」を実践することで、入居者へ穏やかな生活を提供できるよう努めています。
- ② アニマルセラピーを実践することで、動物(猫・ポニー・山羊を飼っています)との触れ合いを通じ、癒しを提供できるよう努めています。
- ③ 函館市の郊外にある為、様々な木々、草花、綺麗な空気に囲まれた自然の中で生き活きた生活を過ごせ敷地内にある畑では農作物の栽培や収穫が出来ます。
- ④ 協力医療機関との連携がスムーズです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作り、施設入口に運営理念を掲げて、常に理念の実践化に向けたケアに取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設敷地内の散歩等はオープンにしている。又、町内会に入会しており、行事参加も可能な限り行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域の方からの助言、意見を参考にサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	社会福祉協議会から、一般市民向けの認知症についての相談業務を受託している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	魔の3ロックは絶対に行わない意識を持って、入居者が自由な動きが出来るよう図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送り等を通して、高齢者虐待について話し合いをしている。		

老人グループホームシルバービレッジ函館あいの里・泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が外部研修を受けている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を交わす際は十分に時間をかけ説明し、理解と納得を頂いている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中から、本人の希望や意見等を聞いたり、探っている。又、家族の意見や要望も同様に傾聴、真摯に受け取り、改善すべき所は速やかに改善する様に心掛けている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や要望も同様に傾聴、真摯に受け取り、改善すべき所は速やかに改善するよう心掛けている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	その都度、状況の変化や要望に出来るだけ反した勤務体制とし、意見を取り入れ、やりがいにつながる様に配慮している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日の実践場面の中から学習素材をピックアップし、ミーティングやカンファレンスで話し合う機会や外部研修や市内の連絡会の参加にて学習を深めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や市内の連絡会の参加している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階で利用者の想いやニーズ生活習慣や病状を把握しており、環境が変わることへの不安を取り除ける様に努力している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接で家族のニーズ等を十分に傾聴し、信頼関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を見極めて対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアをしてあげているのではなく、入居者に教えるを請うているという姿勢が大切と教育している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡は密に行っており、状態に変化が生じた場合は随時来所してもらい、現状報告を行っている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人等との面会により、馴染みの関係の継続に努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他入居者と馴染みの関係が出来る様にカップリング、グルーピングの手法を用いて、孤立しない様に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関の紹介や相談を受け入れる等、継続的な関わりを必要とされる入居者、家族に対して付き合いを大切にしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から希望を聞き出し、把握に努めている。言葉や表情や仕草等から感じ取ることが出来ている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、担当ケアマネジャー等と面接することで生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察から心身状態や本人が出来ること、出来ないことを把握している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	独自のアセスメントシートを活用し、カンファレンスで話し合い、利用者や家族の意見、要望を採り入れながら、介護計画を作成している。又、概ね6ヶ月に1度や利用者の状態変化に応じ、都度、現状に即した介護計画を見直し、作成している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活から個々の特徴や変化を記録、申し送り等で情報共有し、介護、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や外出、外泊等、利用者や家族のニーズに対応できる様に柔軟な支援に取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて対応している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関(内科、歯科医他)が中心となって受診支援が出来ている。			

老人グループホームシルバービレッジ函館あいの里・泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置していないが、必要に応じて同敷地内のデイサービスの看護職員に相談している。又、定期的及び随時、往診医や訪問看護師が来所した際、気付いた事や日常の様子等の情報を提供している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は職員がほぼ毎日面会して、その都度状態の報告を受け、退院の目途等を調整している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じ、ターミナルケアの方向性について家族等と話し合っている。又、利用者がより良く暮らせる為に出来ることを見極め、変化に対応したケアが行える様に努めている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要に応じて同敷地内のデイサービスの看護職員の指導を受けたり、施設独自の緊急対応マニュアルを用意している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対策を整備し、避難訓練を行うことで対応が出来る様に努めている。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分配慮している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思、希望が表現できる様な声かけや表情、仕草等にも十分に注意し、自己決定し易い支援を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事等、一人ひとりのペースに合わせた暮らしになる様に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常日頃、身だしなみやお洒落が出来る様に支援している。又、定期的に訪問理美容を利用している。			

老人グループホームシルバービレッジ函館あいの里・泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなる様に味や彩り、盛り付けにも工夫を凝らしている。又、一人ひとりの状態に合わせて準備を手伝ってもらう事もある。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮したメニューを取り入れ、食事や水分の摂取状況を把握し、状況に応じた介助を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいと就寝前の義歯洗浄を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の観察から、排泄パターンや習慣を把握し、出来るだけトイレで排泄できる様に声かけや支援をしている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や食事内容、持病等を考慮し、運動量を検討、実施している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介助が必要な方に関しては身体状況に応じて順番等を考慮している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動の中で生活のリズムを整える様に努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示通りに服薬できる様に支援し、症状の変化を確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下準備、洗濯物たたみ、テーブル拭き等、入居者の心身状態や生活歴に応じた役割や楽しみ事の支援している。			

老人グループホームシルバービレッジ函館あいの里・泉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は敷地内を職員と一緒に散歩、日光浴、焼肉等を楽しまれたり、年間行事として花見、りんご狩り等に出掛けている。お墓参り等は家族と一緒に連れて行ってくれている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や状態を見極めながら、小額の金銭管理を行ってもらう方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望と状態に応じ、事務所から電話を出る体制をつくっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には草花や馴染みの道具を飾ったり、ソファを用意し、家庭的な雰囲気の中で居心地良く過ごせる様に工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	シッティングコーナーやサンルームを用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく、馴染みの道具を持ち込んでもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来ること、出来ないことを十分に把握し、落ち着いた生活が出来る様な環境づくりをしている。		

目標達成計画

事業所名 老人グループホームシルバービレッジ函館あいの里・泉

作成日：平成 29年 9月 14日

市町村受理日：平成 29年 9月 14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	今後も地域とのつながりを大切にして、良好な関係を継続する。	今後も地域に根付き、地域に開かれた施設を目指し信頼関係の維持、向上に努めます。	今後も町内会の夏祭りへの参加や敷地内を解放することで地域の人たちが散歩や小動物との触れ合いが出来るように努めます。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。